

登録コード:MH421300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	認知障害治療学 【20M以降】 Occupational Therapy for cognitive impairment: Part 1			
担当教員	岩波 潤 杉山 暢宏			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻/ 3 年 前期 木曜・ 2 時限			
単位数、講義室	1 単位	保健学科 1 2 1 講義室	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。		認知障害に関する現象を分析し、作業療法士としての専門性を活かして問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		認知障害を有する対象者を支援する作業療法士として認知障害（注意障害、記憶障害等）に関する幅広いと基礎的な知識とその障害を明らかにする評価技能を習得し、治療学実習や臨床実習など様々な状況で活用できる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		社会で派生する多様な健康問題に対して、作業療法士としての視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、対象者の課題に応じた安全で効果的な作業療法の実践に向けて生涯をかけて取り組む力を身に付けることができる。	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	認知障害のある人の生活支援を考えるための理論枠組みを理解するために、認知的遂行要素の標準化された評価について学習する。具体的には、各領域の代表的な評価の構造と実施法について学習する。 本科目は、1年次に学んだ「中枢神経解剖学」や2年次の「高次脳機能障害学」の知識を前提とし学んでいくことになる。そして本科目の内容は、3年次後期に学ぶ「認知障害治療学」ならびに4年次の総合臨床実習における重要な基礎知識となる。 本授業は、担当教員の医療機関における作業療法士としての実務経験を活かして講義を行います。			
授業計画	第 1 回 （ 4月09日） 認知障害と作業療法（概論） 第 2 回 （ 4月23日） 注意障害 第 3 回 （ 5月 7日） 注意障害の評価（演習） 第 4 回 （ 5月14日） 記憶障害 第 5 回 （ 5月21日） 記憶障害の評価（演習） 第 6 回 （ 5月28日） 半側空間無視 第 7 回 （ 6月 4日） 失語 小テスト 第 8 回 （ 6月11日） 失行 第 9 回 （ 6月18日） 失認 第10回 （ 6月25日） 遂行機能障害 第11回 （ 7月 2日） 社会的行動障害 第12回 （ 7月 9日） 認知症 第13回 （ 7月16日） 臨床神経心理検査の実技 第14回 （ 7月23日） 臨床神経心理検査の実技 第15回 （ 7月30日） 臨床神経心理検査の実技 、授業アンケートの実施 第16回 （ 8月 6日） 筆記試験			
授業の進め方	本授業は、教科書とパワーポイントのスライド・配布資料に基づいて進めていきますが、能動学習による理解の深化を目指すため、質疑応答にも重きを置いて展開します。とくに大切な点は、予習（事前学習）・復習（事後学習）を通して能動的に学んだ内容を、論理的・言語的に分かりやすく他者に伝えるという行為を反復することによって、認知障害に関する知識や評価技術についての理解を深めるという点です。そのため、授業の最初には、前回の授業内容の事後学習の成果について質問を行います。また、授業の中では、自身が興味をもって能動的に学んだ事前学習の生活についての質問を行います。これらの質疑応答の反復を通して、行動目標に達成することができるよう意欲的に能動学習に取り組んでください。また、授業の最中でも、不明な点があれば、積極的に質問することによって、自身の疑問を解決するように努めてください。各回で実施する実技は二人一組で行います。			
テキスト、教材、参考書	教科書 ・能登真一（編）：標準作業療法学 高次脳機能作業療法学第2版 医学書院 2019 参考書 ・講義で紹介する			
成績評価の方法	・期末試験、小テスト、レポート課題の結果に基づいて、総合的に成績を評価します。			

成績評価の方法	・総合的評価の配分は、期末試験60%、小テスト20%、レポート課題20%とし、総計の60%以上の得点を合格とします。 ・小テストは、予習もしくは復習による学修到達度を確認するために、第7回(5月29日)に行います。 ・期末試験は第16回(8月6日)に、筆記試験として実施します。 ・レポート課題は毎回の授業後にe-ALPSに掲載される事後課題です。 ・小テスト、期末試験では、認知機能障害に関する基本的概念、行動観察評価と神経心理学的評価の基本、標準化された認知検査の構造と実施法等についての理解度を確認します。 ・本科目の「学位授与の方針」への寄与度は、総合的評価の2/3を 基礎的・専門的な知識と技能 に、総合的評価の1/3を 科学的探求力 とする。
成績評価の基準	小テストおよび期末試験による成績評価の判定基準は、下記の通りとします。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可 なお、これらの採点の基準は、達成目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における、最低限の解答内容であれば「水準にある」、やや詳細な解答内容であれば「やや上にある」、十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している」と判定します。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 授業の終わりに、次回までに学習すべき内容について説明を行います。 【事後学習について】 授業内容に関するレポート課題を毎回提示しますので、実施してください。レポートでは、自分の言葉で端的に解りやすく説明するように意識してください。 本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 $\text{授業時間30時間(2時間} \times \text{15回)} + \text{自己学習時間15時間(1時間} \times \text{15回)} = 45\text{時間}$ 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	本科目は「高次脳機能障害学」の学習内容を基盤に構成されています。履修前に、再確認しておいてください。 質問・相談は教員が在室の場合は、随時受け付けます。またEメールでの質問やアポイントの連絡も随時受け付けます。 質問への対応：岩波潤 iwanami@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡） 保健学科南校舎2階 岩波潤研究室